



# 活動のきっかけとなった模擬陪審裁判劇での経験

裁判員交流会 インカフェ九州(インカフェ)発足の 遠因となったのは1993年です。

私は推理小説が好きで、その時は和久峻三さんの 『陪審15号法廷』を読んでいて、日本にも陪審員制度 があったことを知りました。その年、福岡県弁護士会 が模擬陪審裁判劇を実施するために、陪審員役を市民 から募集しているという小さな記事を新聞で見つけ、 好奇心から応募したんです。108名の応募の中から陪 審員役に選出されました。その劇では最終的にどのよ うな判決を下すかのシナリオはなく、実際の陪審員制 度を疑似体験する機会となりました。その経験から、 裁判や司法にまつわることに興味を持ち、劇に関わっ た方たちと一緒に活動するようになりました。

1994年から裁判に関わる人や制度について学び、 2001年には裁判員制度を市民として後押しする活動 をはじめるなどして、全国の活動者や専門家と知りあ い、人脈を広げてきたことが現在につながっていま す。お仕事のある方と比べると、主婦はフットワーク が軽いです。いつでもどこへでも呼ばれたら「は いっ」とすぐ行けます。だから、いろいろな方たちと つながることで知見を広め、ともに活動できるのは貴 重な経験だと感じます。



### 裁判員経験者が抱える悩みを 少しでも軽くできるように…

インカフェ発起人の一人、福岡在住のAさんは裁判員の経験者です。Aさんが裁判員を経験した当時は、2009年の裁判員制度開始から間もない頃で、裁判員へのフォローは十分ではありませんでした。

実際に裁判員を経験した方は「体験を話す機会がない」「守秘義務の理解が難しく、自分の経験を話せない」と悩むことが多いそうです。

Aさんは悩みを話せる場を探す中で、大阪にある「裁判員ACT(アクト)」という団体が主催する交流会を知り、参加しました。私は長年の活動からACTの方と親交があり、そのご縁でAさんと知りあったのが始まりです。裁判員経験者が裁判終了後にも「本当にこれで良かったのか」とずっと悩んでいたと聞きました。そこで、福岡で裁判員の経験者が話せる場をつくろうと話し合い、経験者のほか、弁護士や新聞記者、市民が一丸となって2014年11月にインカフェが発足しました。



◀インカフェ定例会の様子 (団体Facebookより)

実働メンバーは現在7名です。団体名は、裁判員(=イン)の語る場(=カフェ)から命名しました。



#### 経験者に寄り添って 話を受け止めることの効果

福岡市内で開催している定例会では、お茶やお菓子を用意して、ゆったりと話しやすい雰囲気をつくります。ただ現在は新型コロナウイルスの影響で、集まることは控えて、別の形を検討中です。定例会には、ここ4~5年で20人ほどの裁判員経験者の方が参加されました。法律的な部分は弁護士や法学部の先生がしっかりアドバイスをして、それ以外のお話やお悩みを受け止める、人生相談のようなことを私が担っています。

裁判員経験者の方には、実際に定例会の場に来ていただく前に私がお話を伺うようにしていますが、お話いただくことで「何だか気持ちが軽くなった」と仰るんですね。ちょっと肩の荷が下りたのかなと思います。これまでは私が話すことが多かったのですが、今はお話を聞くという役割がすごく楽しいですね。



# 気になったら、まず動く妻を 多方面で支える大切な夫の存在

私の活動の原点は好奇心です。小さなことでも自分が「あれ?」と思ったら調べて「そうなんだ」と納得したり、「いや、それは違うよね」といった葛藤を生む素は、やはり好奇心なんですね。

私はまず走ってみて、それから考えを後付けしようとするタイプだと周りから言われます。深く考えることがない妻に対して、夫が「ちょっとは考えてから動こうね」と時々ブレーキをかけてくれます。資金が必要なときは夫を拝み倒して、一生に一度のお願いを何十回、何百回使ったことか(笑)。ですから夫には、私

の好奇心や意欲を多方面で本当によく支えてもらって います。そんな夫に対して感謝しながらも、相変わら ず走り続けていく私だと思います。



# これから取り組んでみたい ことはありますか?

いつか裁判員を経験してみたいですね。もし裁判員を経験したら、私が見たことや感じたことを出会う全ての人に伝えます。「知らない」ことが怖いと感じる根源だと思いますから。「上野が裁判員をやったってよ、こんなところが大変だったって言っているよ」と、出会う方に受け止めてもらえる話し方でどんどん広報したいと思います。

いろんな犯罪の原因が裁判で明らかになっています。その原因を他人事と思わず、もし自分の身の回りで起きたらどうするだろうと考えてほしいです。 犯罪の前触れとかサインを周囲が感知することができる社会になれば、もっと犯罪は減るんじゃないかと思います。

私はアナログ人間だから、電話をする、手紙を書く、直接会うといった時代遅れと言われるような方法を用います。昔からの手段が本当はとても大事だと思うし、お互い顔が見えるとすごく安心感があります。そういう関係を今からもっと広げていきたいです。そして、これからの子どもたちが生きづらさを感じることがない社会になることを願っています。



#### 取材を終えて

好奇心と行動力から活動や人脈が広がり、インカフェを福岡で立ち上げて、経験や人脈を共有して公益的な活動を続けていく様子が伝わりました。多くの人に裁判員制度を正しく知ってほしいですね。



